

原水爆禁止世界大会に寄せる想い！

秋山さよ子（水戸市在住）



軍国少年・その誕生の秘密

【終戦特別番組「15歳の志願兵」
8月15日午後9時からNHKで放映】

軍国少年は、どのように生み出されていったのか。戦後65年の夏、NHKはその舞台裏をドラマ化します。

舞台は、全国屈指の進学校・旧制愛知一中（現旭丘高校）。ドラマは、江藤千秋著『積乱雲の彼方に』に書かれた実話をもとに、戦争で引き裂かれた少年たちの夢や友情を描きます。

物語の中心をなすのは、当時の新聞に「愛知一中の快挙」と大見出しで報じられた1943年7月5日の生徒大会。それまで海軍甲種飛行予科練習生（甲飛生）の募集に冷ややかだった愛知一中生が一転、総決起し、3年生以上の生徒全員が戦争に行くことを決めたこの事件は、全国の中学生を戦争に動員する先駆けとなりました。事件の背景には、軍当局が全国の中学生に割り当てた志願者のノルマがありました。

総勢700人の生徒が総決起した舞台裏はどのように仕組まれたのか。親や教師はどう向き合ったか。「その葛藤が大きなドラマ」となっています。

美和・緒川平和の会：理事決まる。

7月19日に美和・緒川平和の会総会が開催され、県平和委員会理事として、次の2名の方が決まりました。

・堀江 仙三さん ・小室 道夫さん

平和新聞

2010年8月5日（木曜日）

1932号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 **日本平和委員会**
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版

平和新聞茨城版 No. 570
2010.8/5

発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

『広島に「原子爆弾」が落とされた。
ラジオがある家は多くなく、新聞もあまり読めないような農村にも「原爆投下」の報はあつという間に知れ渡った。物凄い爆弾だ。とにかく恐ろしいそうだ。人々は口々に言った。その時の動揺と騒ぎは1999年に隣村の東海で起きた臨界事故の比ではなかった。誰もがいつどの瞬間戦争よって命を奪われるかわからない身の上だった。空襲、艦砲射撃、機銃掃射。それらをはるかに凌ぐ恐怖が世界を覆っていった。ほどなくして二発目が長崎に投下された。もう日本は負けるのだという空気が一気に高まった。長崎の原爆は本当は水戸に落とされるはずだったというデマまで流れた。そして15日の玉音放送。なぜだか忘れたが、私はそれを聞きに行かなかった。人づてに日本は降伏するのだと聞いて、やっと戦争が終わるのだと安堵した。しかし、それもつかの間だった。その後も空襲が続いたからだ。近所にはアメリカ軍上陸に備え、竹槍を作る人たちもいた。もしや3発目が茨城に――。そんな不安が頭に浮かんだりした。』

この話は原水爆禁止世界大会に参加するにあたり、あらためて聞いた原爆投下にまつわる祖母の記憶です。祖母は実際には原爆

に遭ってはいないし、広島・長崎からは遠く離れた地にいました。そして「原子爆弾」が何者なのか知る術もありませんでした。にもかかわらず、原爆投下の衝撃はすさまじく、人々を計り知れない恐怖に陥れたのでした。今回あらためて祖母に話を聞いたことで、「ヒロシマ・ナガサキ」が当時の人々にとって対岸の火事ではなかったことがわかりました。

被爆から65年が経とうとしています。この間、核兵器は実戦では使用されていません。しかし、核兵器が存在し、国家が軍隊を組織し、戦争という手段を捨てない限り、自分の頭上に核兵器が落とされる危険性は地上の誰しにもあるのだと思います。

幸いにも私は「戦争をしないと決めた国」に生まれました。でも、だからこそ、今まさに同じ地球の上で戦禍に苦しむ人々がいるという現実を他人事にははいけないのだと思います。

今年の茨城代表団の半数は学生・青年が占めています。私は若者には前の世代にはできなかったことができる、世界を変えていく力を持っていると信じています。この思いを胸に、明日（8月3日）私は仲間とともに広島へと赴きます。

< 2010年度第1回常任理事会報告 >

平和への志向は垣根なし！ = 各自治体の対応も変化 =



2010年度第1回常任理事会が、7月24日（土）グリーンパレス石岡にて開催されました。当日は、途中で休憩を取らざるを得ないほどの茹だるような酷暑でしたが、参院選後の情勢・各平和委員会(平和の会)の活動状況・沖縄ツアーの取組み・専門委員会の設置等の各課題について話し合いが行われました。

[平和行政を積極的に進めよう]

・署名活動での25の自治体の首長・24の議会議長の賛同、また県内平和大行進での北茨城市・笠間市・城里町・龍ヶ崎市・桜川市・筑西市・取手市・守谷市などでの協力対応など、各自治体では平和運動に対して垣根をなくしてきていることが各平和委員会から報告された。日頃から各自治体と平和行政について話し合いを進めていこう。

[戦争と平和を考える特別旬間]

・戦争体験者が高齢化しているので聞き、記録をとること、各地域の戦跡を発見し残す等、平和委員会としての仕事である。

[各種専門委員会の設置と常任理事(理事)の役割分担] ・「組織強化」(水野・植田・近藤) ・「学習宣伝」(伊達・飯村・川又・池田) ・「機関紙編集」(中山・小林) ・「財政担当」(稲田)

「普天間は世界一危険！」＝金では爆音は消せない＝

- 普天間爆音訴訟判決 -

7月29日那覇市の福岡高裁那覇支部で、普天間爆音訴訟の控訴審判決がありました。

普天間爆音訴訟は2002年10月29日、同基地周辺住民約400人が那覇地裁沖縄支部に提訴し、現在まで約8年が経過しています。2008年6月26日の一審判決は、同基地の爆音が受忍限度を超え、生活・睡眠妨害を生じさせ、米軍機墜落の不安感や恐怖感など精神的被害を増大させることを司法として初めて認定した一方で、夜間・早朝の飛行差し止めは棄却し、ヘリ特有の低周波被害も認めませんでした。原告・被告双方ともに2008年7月に控訴しました。

今回の控訴審判決について、原告弁護団の新垣勉団長は、積極面として①米軍機の発する騒音が違法であることを再度断罪、②普天間基地特有の低周波騒音を司法として初めて認定、③損害賠償額水準の一審の倍額引き上げ、④普天間基地が「世界一危険な飛行場」という評価を初めて判決で指摘、などをあげました。しかし、他国（第三者）である米軍の飛行を差し止める権限がないとする「第三者行為論」を理由に、飛行差し止めを棄却したことについて、「政治のゆがみや誤りを憲法に照

らして是正するのが司法の本来の役割だが、司法の政治にたいする遠慮と消極性が顕著にみられる」と指摘しました。

「世界一危険な飛行場」と認めながら、飛行差し止め請求は退けられました。原告側は、少なくとも差し止め部分について上告する方針です。

裁判で承認として陳述した宜野湾市の伊波洋一市長は、談話の中で次のように述べています。

『普天間飛行場の特殊性であるヘリの低周波騒音が認められたこと、普天間飛行場を「世界一危険な飛行場」として認定してもらったことは評価したい。ただ、現行法制度では、このような違法な飛行場を止めることができないというところに、司法としての限界を感じざるを得ない。市としては、やはり普天間飛行場を撤去する以外に解決策はないということ、普天間飛行場はここにあってはならないということをより強く感じました。』

控訴審判決後、弁護士が掲げる垂れ幕のなかの1枚には、「金では爆音は消せない」とありました。

この記事はいくつかの新聞報道をもとにして、小林がまとめました。

「九条の会・かさま」文化講演会のおしらせ

落合恵子さん(作家・東京家政大学特任教授)が

《いのちの感受性》の演題でお話します。

と き：8月29日(日)午後1:30(午後1:00開場)

ところ：笠間市笠間公民館大ホール

参加費：事前参加券700円(高校生500円)

当日参加券800円(高校生600円)

託児いたします。(おやつ代:300円)

【連絡先】

多崎貞夫(0296-73-0122)中山貞夫(0296-77-3639)

林昭雄(0296-73-0037)高田敏(0299-45-3465)

田口俊彦(Tel/Fax.0296-74-4701)

「日本ユーラシア協会茨城県支部」第6回平和学習会

シベリア出兵とニコラエフスク(尼港)事件

－水戸第2聯隊はどう関わったのか－

講師：堀江 則雄 氏(ジャーナリスト、法政大学講師)

ユーラシア研究所運営委員)

と き：8月22日(日)午後1:30～午後4:00

ところ：水戸市国際交流センター 多目的ホール

(水戸市備前町 Tel:029-22-1800)

参加費：無料

主催：日本ユーラシア協会茨城県支部

【お問い合わせ】佐川(03-3420-3389) 近藤(029-224-7447)

4年目の戦争と平和を考える特別旬間

猛暑の夏、「戦争と平和展」

各地域で始まる!

今年の夏は、例年になく連日猛暑が続いていますが、4年目を迎えた「戦争と平和を考える特別旬間」が始まり、各地域の平和委員会(平和の会)では、暑さにめげることなくパネル展の準備を行っています。



【展示用パネルの制作に汗を流す、内原友部平和の会の会員】



【苦勞の末に完成したパネルの1部】

DVD上映会

－アフガンに命の水を－

ベシャワール会26年目の闘い

と き：8月19日(木)午後1:45～午後2:45

ところ：笠間市立友部図書館 視聴覚室

主催：新婦人 はなみずき班

参加費：無料

☆中村哲氏を現地代表とするPMS(ベシャワール医療サービス)は、2003年3月19日から2009年6月の6年にかけて、全長24キロ及ぶ農業用水路の建設を行った。このDVDは、その建設の記録映画である。